

第39回日本循環制御医学会総会  
ランチョンセミナー2

# 重症患者に対する 客観的循環管理とその指標

座長

上村 裕一 先生 / 鹿児島大学 医学部 麻酔蘇生学 教授

演者

小竹 良文 先生 / 東邦大学医療センター大橋病院 麻酔科 教授

**2018.6.2**[土] 12:25-13:15

ダイヤモンドホール (MRT micc)

〒880-0001 宮崎市橘通西4丁目6番3号

共催: 第39回日本循環制御医学会 / エドワーズライフサイエンス株式会社

エドワーズライフサイエンス株式会社

本社: 東京都新宿区西新宿6丁目10番1号 Tel.03-6894-0500 [edwards.com/jp](http://edwards.com/jp)

Edwards、エドワーズ、Edwards Lifesciences、エドワーズライフサイエンスおよび定型化されたEロゴはEdwards Lifesciences Corporationの商標です。



Edwards

重症患者に対する客観的循環管理とその指標

東邦大学医療センター大橋病院麻酔科、小竹良文

2001年に Rivers らが重症敗血症患者における早期目標指向療法の有用性を報告して以来、敗血症患者、大手術患者に対する目標指向型輸液管理が注目されている。目標指向型輸液管理では「一回心拍出量を増加させる必要はあるか?」「輸液によって一回心拍出量は増加するか?」という2つの clinical question が要点となる。これらを客観的に評価し、目標指向型輸液管理を活用するためには心拍出量モニタおよび得られる指標の特徴を理解しておくことが重要である。本講演では活用すべき指標として肺動脈カテーテルおよび中心静脈カテーテルから得られる静脈血酸素飽和度、動脈圧波形解析法に基づく心拍出量モニタから得られる一回心拍出量、一回心拍出量の呼吸性変動、脈圧の呼吸性変動、心エコーで得られる大静脈の呼吸性変動を取り上げ、上記の clinical question の解答を得るプロセスを解説することとしたい。